

2006/4/19 (水) ・ 「新・田舎主義」第3部 ・ 「郊外化」する地域

郊外型、都会型のライフスタイルが浸透し、暮らしぶりは大きな変化を見せる。「新・田舎主義」第3部は、市街地や新興住宅地に暮らす住民の視点から、生活の変化が地域社会や家族のきずなにどんな影響を与えているのかを見つめる。

## 第3部 ・ 「郊外化」する地域 (9)

提言 - 地域振興研究所代表取締役、須川一幸さん

### 体験共有がきずな生む

郊外化の陰で進む地域コミュニティの崩壊。それを食い止め、暮らしの豊かさを実感できるような地域にするには何が必要なのか。地域社会を見つめる識者に語ってもらい、ヒントを探る。

自然や歴史風土、文化など、佐賀には地域固有の財産がたくさん残っている。もっと誇っているのに、県民は気付いていない。足元を見つめることより、東京や福岡などの都会へのあこがれが先行し、それが郊外化を増幅させる。バイパス沿いに広がる大型ショッピングセンターや衰退する中心商店街は、全国の地方都市で見られる風景。現代社会の縮図といえる。

昔は農村も、市街地も、住民同士の濃密な人間関係を前提とした暮らしがあった。しょうゆやみそ、砂糖、塩は隣近所から貸し借りするのが当然だったし、夕飯をよその茶の間で食べることが珍しくなかった。玄関の鍵をかけずに生活し、どの家も公民館のような状態だった。

祭りや行事があり、住民同士の交流を深める重要な役割を果たしていた。例えば、私の子どもころ、佐賀市中心部の街角にあるえびす像を子どもたちでお参りする習慣があった。そうした原体験の共有が、根っこの部分で住民同士を結びつけていた。

ところが住民が一緒に過ごすことは現在では皆無に等しい。隣にどんな人が住んでいるか知らない無関心社会。地域のコミュニティ機能が弱まり、それが暮らしにも影響を及ぼしている。

では、どうすれば地域は再生するのか。昔に戻ることが不可能とすれば、ひとつの有効な手段として、祭りの再興や現在に合った形にアレンジしたイベントの実施を提案したい。人と人が交わり、接点を生み出すことが重要だ。

宮崎県五ヶ瀬町では、イベントの約1週間前に、外から人を呼ぶ準備として道路沿いの除草作業を実施しているが、自分も地域おこしにかかわっているという喜びがみんなにあるから住民総出の活動となる。農村部と都市部の違いはあるだろうが、「住民参加型」がまちづくりの基本であり、一過性のイベントで終わらないような工夫も求められる。

ただそれも、まちづくりの担い手である「人材」が絶対条件となってくる。活気を呼び起こせるリーダーが地域に欠かせない。日ごろから人づくりの仕掛けを持っていなければならない。

3年前から、佐賀市の中心商店街で音楽を通じたまちづくりを手がける若者たちと付き合ってきた。かつて若者は「佐賀には何も無い」と中心商店街に見向きもしなかったが、仕掛けさえあれば2,000人を集客し、商店街の活性化にもつなげるパワーを持っている。

能書きは必要ないから、まず始める。うまくいかなければ、その都度修正すればいい。若者たちのチャレンジはそ



すがわ・かずゆき 佐賀市生まれ。福岡県宗像市に地域振興研究所を設立。全国自治体の長期総合計画や観光振興策、イベント基本計画などに携わり、地域おこしを総合プロデューサー。九州国立博物館交流事業アドバイザーも務める。

う教えてくれている。

[記事一覧にもどる](#) ▲[ページTOP](#)



#### 感想・ご意見募集のお知らせ

地域の潜在力を見直し、分権時代の新たな地方の在り方を探る年次企画「新・田舎主義 - さが未来探し」。連載企画をはじめ、地域活動に汗を流す住民像にスポットを当てた話題の紹介や「ひろば」欄での特集など多角的に展開していきます。読者のみなさんと一緒に佐賀を元気にする企画です。感想やご意見をお寄せください。

内容によっては、紙面でご紹介する場合がありますので、できればお名前と電話番号をお願いします。

ファクス：0952(29)5760 メール：[houdou@saga-s.co.jp](mailto:houdou@saga-s.co.jp)

Copyright(C) Saga Shimbun Co.,Ltd